

脳神経外科部長就任のご挨拶

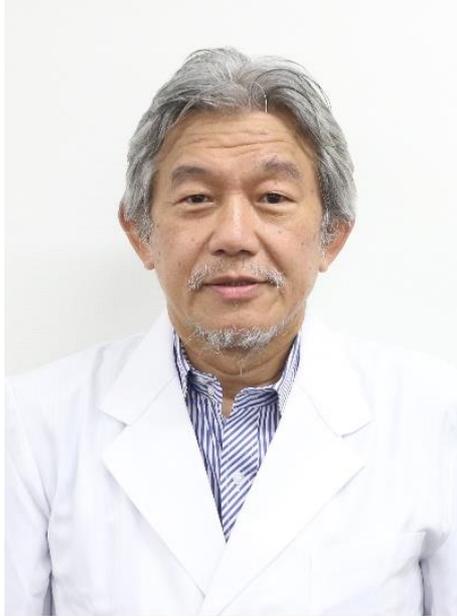
成高 平治部長

澤 重治部長

弁膜症外来を新たにスタート

脳血管内手術の需要に伴い、 治療と手術に^{じんりょく}盡力します

荻窪病院
地域連携ニュース
9月



●脳神経外科 部長

成高 平治 なりたか へいじ

- 1985年 台湾高雄医学院医学部 卒業
- ・医学博士
- ・日本脳神経外科学会専門医・指導医
- ・日本神経内視鏡学会 技術認定医
- ・日本内分泌学会内分泌代謝科
(脳神経外科) 専門医

6年前に中野幸照先生が荻窪病院で脳神経外科を初めて立ち上げました。

外来と一部手術を開始されましたが、本年3月で定年退職され、一時脳神経外科が閉鎖となりました。その後18歳まで荻窪で育った私と慶應義塾大学外科学教室同期の村井信二理事長とのご縁より、本年8月から私が中野先生のバトンを引き継ぎ、当院に赴任することになりました。

籍は中野先生と同じく慶應義塾大学脳神経外科医局からの派遣で、専門は脳腫瘍、脳血管障害（クモ膜下出血、脳出血、脳動脈瘤など）一般、救急医療などの治療と手術（マイクロ、神経内視鏡など）を主とし、さらに同門（慶應）から並木淳先生、金井隆一先生が非常勤で勤務

され、外来と手術の助手を担当していただきます。また近年脳血管内手術（脳梗塞、コイル塞栓術、ステント留置術など）の需要が増加しておりますので、同じ同門の各務宏先生が定期的に脳血管内治療の手術に来ていただくこととなり、従来よりパワーアップした脳神経外科領域の治療と手術を地域の皆様に提供できるように^{じんりょく}盡力して参りたいと存じます。

形成外科の診察を開始いたします

Ogikubo Hospital's Information

うちだりゅうじ
形成外科部長 内田 龍志医師の着任に伴い、2023年10月1日より形成外科の診察を開始いたします。診察の詳細につきましては、追ってお知らせ申し上げます。

第1第3火曜・午後 心臓弁膜症外来を新設

この度、心臓弁膜症外来を開設することといたしました。背景には年間200～300万人ともいわれる我が国の弁膜症患者数が年々増加していること、中でも人生100年時代となった今日、高齢者の大動脈弁狭窄症が急速に増加していることが挙げられます。以前は大動脈弁狭窄症の治療といえば開胸手術による人工弁置換一択でしたので高齢者や基礎疾患がある方はハイリスクと診断され、手術を勧められることは多くはありませんでした。しかし当院で2010年に人工弁を使わない手術として自己心膜による大動脈弁再建術を開始して以降、人工弁置換に代わる手術として順調に件数を伸ばしており若年者のみならず高齢者にも安全に施行されています。この手術は抗凝固薬の服用が不要、自己組織を使用するため生体適合性が高いといった大きなメリットがありますが、開胸手術であることには変わりないため超高齢者やいわゆるフレイルの方にはお勧めしづらいところがあります。



●心臓血管外科部長／心臓血管センター長

澤 重治 さわ しげはる

1983年 金沢大学医学部 卒業

- ・医学博士
- ・慶應義塾大学心臓血管外科非常勤講師
- ・日本外科学会外科専門医・指導医
- ・日本胸部外科学会専門医・指導医
- ・心臓血管外科専門医

治療法の選択肢を広げ、ニーズに合ったご提案を

そこで当院では来年度（2024年）からのTAVI施行施設の認定を受けるための最終準備に入りました。TAVI（Transcatheter Aortic Valve Implantation）は開胸せず心拍動下でカテーテルを使って人工弁を心臓に装着する方法で、開胸手術に比べて体への負担が少ない治療法です。当院がTAVIの認定を受ければ自己心膜を用いた大動脈弁再建術とTAVIの両方ともに施行可能な、都内でも数少ない施設となります。患者さんにとっては受ける治療法の選択肢が広がることになり、弁膜症のつらさから解放され快適な日常生活を楽しむための決断がしやすくなることでしょう。

弁膜症と言われて薬物療法を続けているが年々症状が強くなる、手術が必要と言われたが人工弁は入れたくない、もう高齢だから手術はできないとあきらめている、という方お一人お一人に我々は最適な治療法をご提案します。

Ogikubo Hospital's Purpose

患者さん、地域のために持続的な健康と幸せを

ご紹介・ご相談は

荻窪病院 地域連携室

発行：2023年9月

月～金 8:30～18:30 土 8:30～12:00 TEL 03-3399-0257 FAX 03-3399-0258 〒167-0035 東京都杉並区今川 3-1-24